

金融教育だより NO.2



2016年12月2日（金）6校時

テーマ「出産・子育てに掛かるお金」

1 対 象 3年生全員（1組～6組）

2 内 容 出産・子育てとお金

3 授業の目的

（1）出産・子育てには多額の費用が掛かることを知り、育児をするためには経済的基盤が必要であることに気が付く。

（2）自分の将来に対し、経済的基盤の観点から考えを深める。

4 授業の流れ（50分）

○講師の体験談を踏まえ、出産に掛かる費用を知る。

○出産の際に得られる「出産一時金」、育児休暇の際に雇用主から支払われる「育児休業給付金」が、健康保険や雇用保険に加入していることにより得られることを理解する。→本校に来た「求人票」を使って説明。

○会社の福利厚生が生活を守ってくれることを知り、会社を選ぶ際に重視する点を自分で考えられるようにする。

【生徒の感想】

- 「福利厚生がしっかりした企業に就職しろ」と周囲の大人が言うのがなぜなのか今回の講話で初めて知った。また、将来結婚して住む街も古河市のように医療がしっかりしているところが良いと思った。子どものためにも計画的な出産やお金の準備が必要。「保育園落ちた日本死ね」がどのようにして生まれたかを知ることができた。マタニティハラスメントなどの改善されるべき問題も多く存在することを知ることができた。
- 社会に出て行くとお金をたくさんもらえたり、自由に使えるお金が増えると思っていたけど、きちんと貯金をして将来に備えたり、保険や法律を知っておくことが重要だと実感しました。今、高校生なので今学んでおくことで将来の役に立ったりすることが分かったので、この講話を聞けて良かったです。
- 求人票は今まで育休業があるかどうかしか見ていなかったけど福利厚生や保険なども見るのが重要だと分かりました。妊娠して出産するまでのお金がおもっていたよりも高かったので給付されるものも調べたいと思いました。これからの人生は何があるかわからないけれど、何があってもめげずに頑張りたいと思いました。
- 妊娠してから掛かるお金はすごい掛かるんだってすごい驚きました！！赤ちゃんを産んでから考えるのではなく、赤ちゃんを産む前からいろいろ考えて準備をしてから赤ちゃんを育てた方がいいんだって思いました。それに就職してまた会社に戻れるような会社を選ぼうと心から思いました。お金を貯めて、しっかりと準備してから赤ちゃんを産み、幸せな家庭にしたいと子どものことも考えておこうと思いました。
- 出産するのに100万円以上のお金が掛かることにびっくりした。また、お金がないのに出産するのは赤ちゃんがかわいそうになってしまう。だから困ったときには市役所に行くとよいことも分かった。命が生まれるということは大変なことだ。だから命を大切にしたいと改めて思った。
- 男だから関係ない。とかそういうことではなくて、もし自分が女だったらなど自分の奥さんだったらと考えると保険の制度などがとても大切なのが分かった。子どもを産むのでさえそんなにお金が掛かるし、結婚は2~300万円掛かるといいます。本当に大変なのが分かりました。